

Ch. 11 Emotion and Social Metacognition

Hustinger, J. R. and Clore G. L. (2012). Emotion and social metacognition. In P. Briñol and K. G. DeMarree(Eds). Social metacognition, New York: Psychology Press. Pp. 199-217.

小森めぐみ(一橋大学大学院)

Introduction

- ・ 本章では感情を、認知を方向づけるのに重要な役割を果たすメタ認知的ガイドとしてとらえる
- ・ 感情反応は注意、記憶、認知処理を全体的に制御すると考えられてきた
 - 喚起次元は出来事の緊急性や重要性についての情報を伝える(Storbeck & Clore, 2008)
 - 感情価次元は価値に関する情報を伝え、対象の良し悪しについての情報を伝達する
- ・ 著者たちは感情価が認知処理を制御することに注目しているが(e.g., Clore & Huntsinger, 2009)、感情価の他に経験自体も思考に類似の影響を及ぼすと想定している
- ・ 感情による思考スタイルの制御の研究で得られている一般的な結果は、ポジティブ感情はトップダウンの処理を導き、ネガティブ気分はそれらの使用を抑制する方向に働くというもの(Schwarz & Clore, 2007; Gasper & Clore, 2002; Storbeck & Clore, 2005)
 - 様々な説明のしかたがあるが、どの説明でも、ポジティブ感情とネガティブ感情がそれぞれ別の認知スタイルを引き出すことを想定している点は共通
- ・ 著者たちは、感情状態はそのときに頭に上っている思考や反応の価値や妥当性を知らせるシグナル(ポジティブ感情=go、ネガティブ感情=stop)として働くのみであると主張する。
 - よって、感情が認知に及ぼす影響は、その時に何が頭に上っているかによって変わる(Clore & Huntsinger, 2009)。感情が認知に及ぼすこうした影響はメタ認知的ともいえる
- ・ 本章の前半部分では、感情がアクセシブルな心の中身や心的プロセスの価値についてのメタ認知的な情報を提供することによって認知を方向づけるという考えに一貫する研究をレビューする。後半では感情の一貫性(vs.非一貫性)と呼ばれるものに注目する

Affect as metacognitive information

- ・ 感情はそのとき頭に上っている思考や反応傾向の価値についての情報を提供し、人々がそれらをどの程度使用するかを方向づける
- ・ 感情はこれまで想定されてきたように特定の認知プロセスに直結しているのではなく、目標や思考、反応傾向の変化にフレキシブルに対応した影響を及ぼす。
 - ポジティブ感情はアクセシブルな思考にポジティブな価値づけをおこなって、それが妥当であるように感じさせる。ネガティブ感情は逆方向の影響を及ぼす

Thoughts: Signaling the value of accessible attitudes

- ・ 感情はそのときアクセシブルな思考の価値を知らせることで、認知に影響を及ぼす

Huntsinger, Sinclair, & Clore(2009)

- ・ 音楽でポジティブ(vs. ネガティブ)な気分を導出された参加者は、IATでアフリカ系の名前(vs. ヨーロッパ系の名前)にネガティブな態度を示しやすかった。ジェンダー(数学に対する女性の偏見)を用いた検討でも同様の結果
 - 気分導出がない場合、非黒人サンプルはアフリカ系の名前にややネガティブな態度
- ・ 過程分離手続き(Payne, 2001)を用いたフォローアップの研究では、この結果が認知スタイルや処理の深さの違いではなく、アクセシブルな態度を使用した程度の違いであることが示された

Goals: Signaling the values of goals versus goal progress

- ・ 感情は、そのときに追及している目標の望ましさを知らせることで、目標追求行動に影響する

Huntsinger & Sinclair(2010)

- ・ パートナーと親密になることが頭に上っているときには、ポジティブ気分の参加者の方がネガティブ気分の参加者と比べて、パートナーの人種態度を潜在的にも顕在的にも受容しやすかった
- ・ その他、気分は目標の達成状態についての認知や、目標追求を楽しんでいると思うかの判断にも影響を及ぼす(Martin, Ward, Achee, & Wyer, 1993)

Implicit-explicit attitude relations: Signaling the value of implicit attitudes for explicit attitude reports

- ・ 感情はアクセシブルな潜在的態度の価値を知らせるとともに、顕在的な態度がどう報告されるかにも影響を与え、潜在態度と顕在態度の対応を調整する
- ・ ポジティブ感情は両者を一貫させ、ネガティブ感情は両者を分離させることがさまざまな研究で示されている。これは、感情がその場で頭に浮かんだ直観を信じるべきかの情報を与えるため

Huntsinger (in press) →Huntsinger(2011) *PSPB*, 37(9), 1245-1258.

- ・ ポジティブ気分を導出された参加者は、事前に直観への信頼(vs. 不信)をプライムされている場合に、潜在態度と顕在態度の内容を一致させやすかった。

Persuasion: Signaling the value of processing styles versus message-relevant thoughts

- ・ 感情が説得に及ぼす影響は、感情がアクセシブルな思考スタイルのフィードバックとして経験されるか、思考内容のフィードバックとして経験されるかに応じて異なる
- ・ 気分が処理スタイルに及ぼす影響を検討した先行研究(e.g., Bless et al., 1990; Mackie & Worth, 1989)では、気分導出は説得メッセージを受け取る前に行われていた。この場合、感情は参加者が従事しようとする特定の処理スタイルの妥当さを判断する材料となる

Briñol, Petty, & Barden (2007)

- ・ 説得メッセージを受け取った後に気分の導出を行った。この場合、感情は説得メッセージを読んだ後に頭に浮かんだ思考の内容の妥当さを判断する材料となる
- ・ 参加者は論拠の強い(vs. 弱い)説得メッセージを読んだ後に自分たちの思考内容を記述した。記述内容は強い(弱い)論拠をもつメッセージに対して好意的(非好意的)であった。その後参加者は気分の導出操作を受け、最後に説得メッセージへの同意の程度を回答した。
- ・ その結果、ポジティブ気分の参加者は強い論拠をもつメッセージに説得されやすかったが、ネガティブ気分の参加者は、逆に弱い論拠をもつメッセージに説得されやすかった

Stereotyping: Signaling the value of stereotypes versus counterstereotypes

- ・ ステレオタイプが頭に上っているときには、ポジティブ気分はそれらをポジティブに価値づけて使用を促進し、ネガティブ気分はそれらをネガティブに価値づけて使用を阻む(Bodenhausen, Kramer, & Susser, 1994; Lambert, Khan, Lickel, & Fricke, 1997)

Huntsinger et al(2009) study 1 武器同定課題(Payne, 2001)を用いた検討

- ・ 白人 or 黒人の顔を短く提示した後で呈示されるターゲット物が武器か道具かをなるべく速く判断する。典型的なエラーは黒人顔(白人顔)呈示後に道具(武器)を武器(道具)と誤判断するもの
- ・ ポジティブ気分の場合、ネガティブ気分の場合と比べて上記のエラーが生じやすかった

Ashton-James, Huntsinger, Clore, & Chartrand (2009)

- ・ 老人カテゴリのプライミングは歩行速度や政治態度に影響する(Dijksterhuis, et al, 2007)ことを利用
- ・ 参加者は気分導出後にプライミング課題(老人 vs. 若者)に従事した。ポジティブ気分を導出された参加者にはプライムの効果がみられたが、ネガティブ気分の参加者には見られなかった

Huntsinger, Sinclair, Dunn & Clore(2010)

- ・ 平等主義目標が慢性的 or 一時的にアクセシブルである場合には、ポジティブ感情はネガティブ感情よりもステレオタイプを抑制した。平等主義目標がアクセシブルでない場合には、ポジティブ感情はステレオタイプ使用を促進した。
- ・ 反ステレオタイプ的な事例との接触やステレオタイプを抑制する実行意図を形成した場合でも、ポジティブ感情はステレオタイプ化を抑制した。
- ・ いずれの研究でも、反ステレオタイプ的な思考はムード導出の前に行われた。

Global-local focus: Signaling the value of perceptual styles

- ・ ポジティブ気分の人は「森」に注目しやすく、ネガティブ気分の人は「木」に注目しやすい(Gasper & Clore, 2002; Isbell, 2004)
 - 気分は注意の広げ方に影響を及ぼすと考えられてきた(Schwarz & Clore, 2007)
- ・ 人々は注意の焦点を自分で動かせるが、たいていの状況では全般的な注意を向けている状態が優勢(Navon, 1977)。ポジティブ感情は注意の焦点を広げているのではなく、すでに優勢となっていた見方を促進しているだけかもしれない

Huntsinger, Clore, & Bar-Anan (2010)

- ・ ポジティブ気分の人は全般的な焦点がアクセシブルな場合には全般的な焦点をとりやすかったが、局所的な焦点がアクセシブルな場合は、逆に局所的な視点に立ちやすかった

Creativity: Signaling the value of thoughts and focus

- ・ ポジティブ気分の人はネガティブ気分の人と比べ、思考に高い創造性やフレキシビリティが見られる(Baas, De Dreu, & Nijstad, 2008; Isen, 1987)
 - ポジティブ感情自体が創造性を促している可能性もあるが、創造性課題を実施しているときの感情が、そのとき頭に浮かぶ思考や反応傾向を価値づけている可能性もある
- ・ ポジティブ気分の人は、創造性課題に従事している際に頭に浮かんだ思考を「妥当で価値のあるもの」と考えて報告しやすいのかもしれない(一貫する研究として Gasper, 2004)

- ・ 加えて、創造性課題の多くは楽しいものであり、学生が **enjoyment focus** をもって課題に従事していることが、結果に影響を及ぼしている可能性もある(Wyer, Clore, & Isbell, 1999)
 - ポジティブ気分の方は、課題が楽しさ(vs. 成績)を強調している場合に、その課題に時間をかけて取り組みやすく、より創造的な反応を形成する(Martin et al., 1993)

Summary (略)

Affective (in)coherence: cognitive consequences

- ・ 本節では、感情の一貫性(非一貫性)が認知に及ぼす影響について検討する
 - 感情の一貫性:主観的経験と評価的な信念が一貫している状態
 - 感情の非一貫性:主観的経験と評価的な信念が矛盾している状態

Epistemic consequences of affective coherence

- ・ 主観的な経験が自分に対する評価的な信念と矛盾する場合には、それが進行中の認知活動に影響してパフォーマンスを低下させる

Tamir, Robinson, & Clore (2002)

- ・ 事前に測定した内向的(不幸を報告しやすい)ー外向的(幸福を報告しやすい)の個人差の回答に矛盾する感情を導出された参加者は、認知課題への反応時間が遅くなった

Centerbar, Schnall, Clore, & Garvin (2008)

- ・ スクラブル課題や閾下提示で幸せ(vs. 悲しみ)概念をプライムされた参加者に対し、さまざまな感情経験(音楽でのムード導出、表情筋の運動等)をさせ、プライムの効果を調べた
- ・ その結果、感情や身体手がかりがプライムされた感情概念と一貫している場合には、矛盾している場合と比べて事前に読ませた物語の再生量が多かった

Affective coherence influences the value of accessible mental content

- ・ 感情の一貫性は流暢性の感覚を通じてポジティブ感情を増加させる(Tormala et al, 2007)

Huntsinger & Graupner (2010)

- ・ 大学生に卒業試験を課することについての説得メッセージを参加者に読ませた。感情の一貫性の他に、論拠の強さ(研究1)やメッセージ源泉の専門性(研究2)を操作した。
- ・ 人は認知資源を節約しようとする傾向にある。感情の一貫性はその傾向を妥当とし、ヒューリスティックな処理を導く一方、非一貫性はその傾向を否定し、システムティックな処理を導くと予想
- ・ その結果、感情の一貫性がある場合には、参加者は論拠の強さにかかわらず(研究1)、または源泉が専門家である場合に(研究2)説得メッセージを受容しやすかった
- ・ 研究3では参加者はメッセージを読んでから、感情の一貫性の操作を受けた。その結果、感情の一貫性がある場合には参加者は論拠の強いメッセージを受容した。これは、メッセージの処理過程ではなく、その内容が感情の一貫性によって妥当化されたため

Coda (略)